

学長・理事 三重大学の課題と展望を語る

ビジョン ● 学長・理事 三重大学の課題と展望を語る

ビジョン ● 学長・理事 三重大学の課題と展望を語る

統括・研究

三重大学で研究と社会連携の二つを両立させ推進するのが役目です。外部資金導入、社会連携活動の促進などの成果は上がっていますが、様々な要因で学生や教員が純粋に研究に集中できる時間が少なくなってきました。そのためか、年間の発表論文数や被引用件数が減少傾向にあり、研究レベルの維持、向上も懸念されます。しかしどんな事情があろうと、大学に籍を置く限り、創造的研究を続けることが私たちの義務であり喜びです。構成員が少しでも効率的に研究できる環境を整え、優れた研究が三重大学から続々と生まれる、それが研究担当の私の目標です。大学改革が将来どのように行われようと、世界初演の研究成果が生み出されていくと信じています。



理事・副学長
武田 保雄
Takeda, Yasuo

世界初演

総務・財務

近年の採用者は活気に溢れ知識もあります。あとは継続したやる気とチームワーク、更には企画力が必要です。若手が先輩に与える刺激もまた組織にとって重要です。広報誌「えっくす」に限らず各種資料もベテランと若手、教員と事務職員が一緒に取組んでいるものも多いです。自主財源で建てた環境・情報科学館は、隣接の図書館との一体性と必要性を国に説得した結果、永年の懸案だった図書館の改修へと結びつきました。加えてイノベーション研究開発拠点のアイデアも認められました。この周辺は学生や地域の人々が集まる通りになっていくでしょう。まず自らやってみて、そこから主張していくこともステークホルダーに理解される早道かもしれません。三重大学は進化し続けます。



理事・事務局長
坂口 力
Sakaguchi, Chikara

意識改革



学長
内田 淳正
Uchida, Atsumasa

縮地補天

大学改革が求められています。三重大学がどういう大学を目指すか明確なミッションを示さなければなりません。それは地域性を最重点として国際性豊かでイノベーションを推進できる人財の養成に努めること。そのためにはまずは教育

改革、特に教養教育の充実が必要です。それに基づいた専門教育、大学院教育に取り組みます。三重大学の良き伝統である教職員学生の「一体感」と「志」を大切に。そのことが教職員の意識改革につながり、やがて組織ガバナンスの確立につながっていきます。

「縮地補天」は政治上、行政機構などを大きく改革することのたとえであり、また、非凡なことをするたとえです。地を縮め、天を補う意から。改革には痛みを伴います。みんなで見分ち合ひましょう。

進取果敢

評価・情報

現在、附属図書館では改修工事を行っています。25年の4月からリニューアルオープンします。改修後、1階はグループ学習ができるラーニング・commons[※]ができます。2階はコンピュータ・セミナー室や個人学習ができる個室を設けた静音ゾーンで、隣接する環境・情



理事・副学長
滝 和郎
Taki, Waroh

報科学館と連絡します。3階は完全に静粛な学習空間を提供する無音ゾーンです。また総合情報処理センターでは、研究・学習がよりスピーディーに効率よく行えるように、学内ネットの充実とmoodle[※]をはじめとした学習支援をより完成したものにしていきます。学生や教員がより良い環境で研究・学習に励めるよう支援を行っていきます。

※moodle (ムードル)
インターネット上の自主学習や、授業用のwebページを作るためのソフト



理事・副学長
朴 恵淑
Park, Hye-sook

環境・国際

環境では日本初の全学部一括のISO14001認証取得による環境マネジメントシステム(EMS)の構築、三重大ブランドの持続発展教育(ESD)の推進、3R活動やMIEUポイント[※]による循環型キャンパスの形成、スマートキャンパス実証事業による低炭素キャンパスの構想により、エコ大学ランキング1位となりました。国際では、日中韓及び日タイのアジア諸国との「翠のダブル・トライアングルネットワーク」を構築し、ダブル・ディグリー[※]の推進、国際インターンシップの実施、ユネスコスクール活動を積極的に行いました。環境・情報科学館を大学と地域、世界とのプラットフォームとし、「グローバル環境人財育成」に励み、天下第一の環境先進大学となります。

※MIEUポイント
学内の環境・省エネ活動に応じて環境ポイントを付与する制度

※ダブルディグリー(複学位制度)
三重大学と海外の大学(協定校)の2つの学位を修得できる制度

天下第一

教育

学問は、深く細かく知ること(専門化)と、全体を知る(調和化・人格化)という二つの指向性を宿します。「教養」が主として後者にかかわるものとすれば、大学において「教養」が繰り返し問題とされるのは、とどまることを知らない専門化による歪みを是正しようとする、学問自体の内在的な要求によるものと考えられます。

現在、三重大学では教養教育のあり方について議論を進めています。これは具体的には教養教育科目をどのように開講するのかという授業運営上の問題であるとともに、学問をどのように考えるのかという意識を反映するものでもあります。このことを踏まえつつ、三重大学の教養教育を充実させていきたいと考えています。

教養教育

From Mie to the World